

飛鳥世一

詩編集 第一部 時刻^{とき}の物語り



すべての芸術家は
詩人でなければならない
エゴン・シーレ



2024年08月01日 e-puboo 初版リリース

目次

はじめに	1
時刻(とき)の物語り 詩編 令和4年11月30日 20時14分	3
時刻(とき)の物語り 詩編 令和4年12月1日 12時30分	5
時刻(とき)の物語り 詩編 令和4年12月16日 21時58分	7
時刻(とき)の物語り 詩編 令和4年12月17日 4時18分	9
時刻(とき)の物語り 詩編 令和5年2月8日 10時23分	11
時刻(とき)の物語り 詩編 令和5年2月10日 9時50分	14
時刻(とき)の物語り 詩編 令和5年2月17日 20時2分	17
時刻(とき)の物語り 詩編 令和5年3月2日 7時10分	20
時刻(とき)の物語り 詩編 令和5年3月6日 10時29分	23
時刻(とき)の物語り 詩編 令和5年3月9日 12時1分の「下書き」から	27
時刻(とき)の物語り 詩編 令和5年7月16日 19時1分	35
時刻(とき)の物語り 詩編 令和5年8月4日 9時43分の「下書き」から	37
時刻(とき)の物語り 詩編 令和5年8月12日 10時6分の「下書き」から	39
時刻(とき)の物語り 詩編 令和5年9月2日 15時37分	41
時刻(とき)の物語り 詩編 令和5年11月2日 5時25分	42
時刻(とき)の物語り 詩編 令和5年12月1日 9時1分	44
時刻(とき)の物語り 詩編 令和6年6月3日 24時52分	45
時刻(とき)の物語り 詩編 令和6年6月11日 7時46分の「下書き」から	47
時刻(とき)の物語り 詩編 令和6年7月5日 9時37分	49
時刻(とき)の物語り 詩編 令和6年7月15日 12時11分	51
時刻(とき)の物語り 詩編 令和6年7月18日 16時45分	53
時刻(とき)の物語り 詩編 令和6年7月23日 7時27分	55
時刻(とき)の物語り 詩編 令和6年7月24日 4時00分	59
時刻(とき)の物語り 詩編 令和6年7月27日 20時28分	62
時刻(とき)の物語り 詩編 令和6年7月30日 13時50分	64
時刻(とき)の物語り 劇詩 令和6年8月2日 11時15分	67
時刻(とき)の物語り 劇詩 令和6年8月3日 10時17分	69
時刻(とき)の物語り 劇詩 令和6年8月3日 21時16分	71
あとがき	74

はじめに

本書は主に note にあげてきた作品と、note では陽の目を浴びることの無かった下書き作品で構成されている。したがって、お友達登録してくれている貴方なら、目にしたことがある作品もあるのかもしれない。愚作、駄作、習作、秀作の区別なく「時刻(とき)の物語り」として一羽一絡げにさせてもらっている。

始まりは令和四年十一月三十日の作品から。わたしの還暦の誕生日からはじまる。

足掛け三年。

延べで二十一カ月。

振り返ると、私の場合は病気がそばに在った。

糖尿の悪化、急性膵炎、膀胱癌、慢性膵炎……なにやら偉そうで手強そうな名前が並ぶ。

なんでこんな病気をするようになったのか。そう思った私は遺書を書いておくことにした。それがこの詩編集の役割でもある。なにやら遺すことに貪欲になっている。

もう一つの目的は、あなたの三年、延べで二十一カ月を思い出す役に立ててもらえれば嬉しいのである。思い出したいことから思い出したくない事まで、様々な思い出があるかもしれない。大丈夫。人間は忘れることが出来る技を身に付けている。忘れてしまいたいと思ったら、忘れてしまうに限るのだ。

本書はタイトル索引をつけていない。目次もつけていない。

タイトルは、本編につけてあるだけである。

タイトル代わりには「時刻(とき)の物語り 詩編 ○年○月○日 ○時○分」とさせていただいている。

「○年○月○日 ○時○分……はて、わたしは何を書いていたろう～ わたしには何があったろう」思い出す手立てになれば、ここの駄文、駄作達も愛せるかもしれない。

掛け替えのない一瞬。過ぎて行くだけの一瞬。

刻み付ける類稀な能力を有した、同じ時間を生きた仲間たちに届くことを誓 (いの) って

令和六年八月一日

飛鳥世一

時刻 (とき) の物語り 詩編 令和4年 11 月 30 日 20 時
14 分

詩編 『とある小説書きの Mascherata』

君は逢ったことの無い

他人 (ひと) を愛せるかい

そう。

君は無理だという。

君は逢ったことのない
他人を愛せるかい
そう。君は無理だ
という。



Angelo Caroselli (イタリア)
アンジェロ・カロッセリ
◆バロック
◆カラヴァッジェスキ
(カラヴァッジョ派の画家)
◆タイトル Mascherata

маскалед.jpg

時刻(とき)の物語り 詩編 令和4年12月1日 12時30分

詩編 『もう一つの夢殿』

人は泣きて生まれ落ちる
一生のうちに何度泣くかを告げられぬまま
知らされぬままに

潮満ちて人は笑うことをおぼえる
一生のうちに何度笑うかを告げられぬまま
知らされぬままに。

いつしか泣くことは、哭くことを選び
笑うことは嗤うことを選ぶ
それぞれの夢殿を前に人
はたと気づく
何度泣けただろう
何度笑えたのか

哭いた数は九十九に及び
嗤た数は数知れず

生ける間に開けておくは
吾夢殿の扉であった
と痴れば芳し

世一



詩編.png

時刻 (とき) の物語り 詩編 令和4年12月16日 21時
58分

詩編『ねえ ……』

おとこの人って ……

生きながら何度聞いただろう

生きながら幾つの口が呟いただろう

あのね初めてはお前だったよ

おんなの人って ……

はじめてきかれたお前は

どんな顔を魅せてくれるのだろう

そう訊くおとこと朝のラテを飲めるかい？

…… そうきけるのは未来永劫 おんなの特権なのさ ……

世一



スクリーンショット 2024-07-31 14:41:19.png

時刻(とき)の物語り 詩編 令和4年12月17日 4時18分

詩編 Hey you !

Hey y o u , what am i ?

チョットあんた！わたしはあんたのなんなのよ？

How many times have i heard.

私は何度聞いたことでしょう

Shall i ask you too ?

私もあなたに聞きましょうか

世一



スクリーンショット 2024-07-31 144639.png

時刻(とき)の物語り 詩編 令和5年2月8日 10時23分

世一、糞詩(ふんし)する『詩びと』

『詩 び と』

ひとは詩のなかひとを呪う
ひとは詩のなかひとを愛す
ひとは詩のなかひとをコロス
ひとは詩のなかひとを慈しむ
根源的呪詛の言葉と知らず

詩のなか呪い愛しコロシ慈しむ

ひとは詩のなか一人哭く
ひとは詩のなか一人嗤う
ひとは詩のなか一人歓ぶ
ひとは詩のなか一人憤る
良い人になりたい思いなど

何処かに置き去りのままに

ひとは詩のなか優しくなる
ひとは詩のなか厳しくなる
ひとは詩のなか利口になる
ひとは詩のなか愚かになる
それが人間の本質と知らず

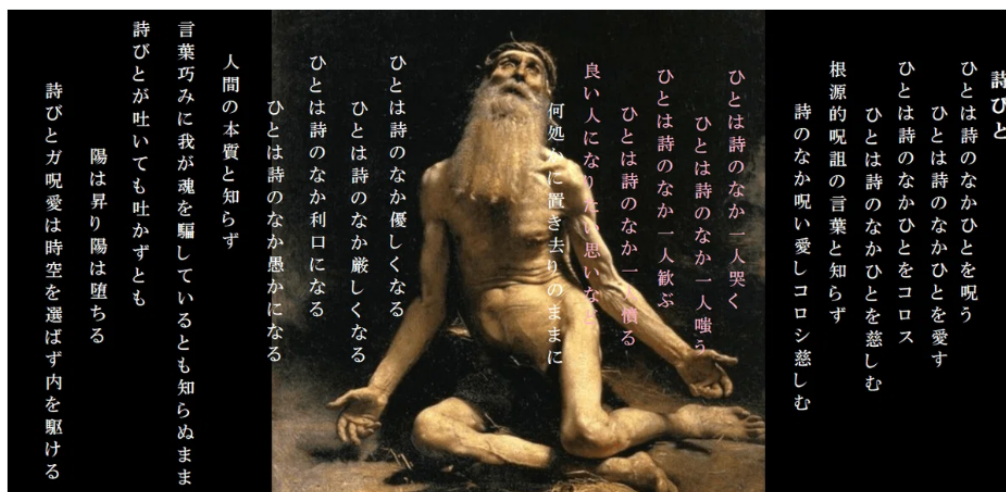
言葉巧みに我が魂を騙しているとも知らぬまま

詩びとが吐いても吐かずとも陽は昇り陽は堕ちる
詩びとが呪愛は時空を選ばず内を駆ける
ひとは詩のなか黄昏と書く
夕削とは知らず。夕闇が削がれる頃合いと知らずに

生きる者の言葉は生き血

詩びとは闇夜に二度啼く

詩びとの狩りのはじまりだ



『義人の苦難』ヨブ記から レオンボナ19世紀 印象派

スクリーンショット 2024-07-31 14:57:26.png

時刻(とき)の物語り 詩編 令和5年2月10日 9時50分



スクリーンショット 2024-07-31 150215.png

詩編『お遊戯』

お遊戯だ

お遊戯だ

パパも観に来るグランパも

ママも観に来るバァバもくる

僕は飼い主

ジョイも飼い主

ジュリエットは子猫

ボブは飼い主

マーガレットは子猫

アンジーも子猫

サムも飼い主

エシカは子猫

マリーは野良猫

ダンクはお空の下で猫を飼う

七色の猫着を着せられた

マークとロイス、ミシェルとローズ

四人でダンスを踊ってる

パパはニコニコ

ママ顔赤い

グランパ口ひげ弄ってる

バァバが口ひげ引っ張ってる。

追記 23/08/17

云わせてもらうなら、小説らしきものを体内に内包する者が書く詩のようなものは、ここになるのではないだろうか。書かぬこと、捨てることが美へと通じる。

反対に詩びとが“これ”を書くと、当たり前、こことは違うものが出来上がるはずだ。書くことが美へと通じる螺旋の階段。

わたしが本作を書き上げたときからイメージしていたのは実は「バンクシー」の画だった。バンクシーがこの物語を言葉にしたら**__。そう考えるとバンクシーは体内に小説の種を内包しているのではないか。彼の描く一枚の画を小説にしてみることは、きっとオモシロイはずである。

注意) この書き物にはアイディアのネタ元が存在します。

この作品はわたし流の“詩のような”創作です。あしからず。

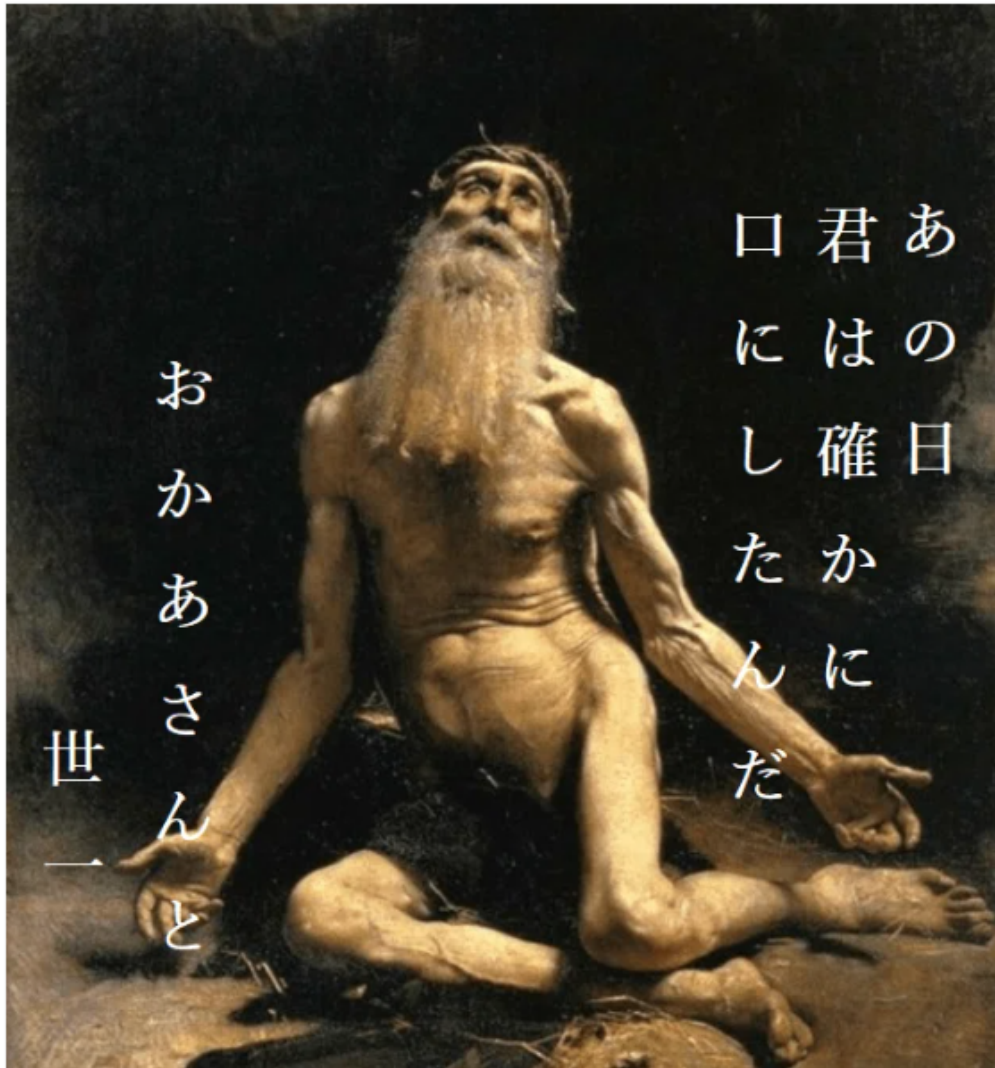
尚、本稿はフィクションです。登場人物・背景すべて架空です。

またそれぞれの尊厳を傷つけることを目的としたものではありません。

『フン♪ しょうがねえなあ』そう感じて頂ければ大成功！

“詩びと”としては、いくつ躓けた？ というところに想いは向くのでした(笑)

時刻(とき)の物語り 詩編 令和5年2月17日 20時2分



スクリーンショット 2024-07-31 15:14:59.png

詩(痴)れる『おかあさん』

さて、チョットね「どうなのかなあ～」と思いながら調べてみた。

するとね、やはりと云うべきかどうかわからぬが、『愛』について書いておられる方__**
やはり女性が多いねえ。

各世代の“お嬢様方”が概ねであるわけよ。

詩をはじめ、小説、エッセー。

愛については大体が女性なんだけど、男性の書くものが読んでみたいねえ。

特に「愛とはなにか」とか「成就形態としての愛のあり様」とか。

男、このへん腰曳けるわなあやっぱり。

根性見せてよ w

お友達のだれか書いてみてくれないかなあ。

お前が書け？

いや、それはチョット無謀な振りというものでしょう。

だって……わたしですよ w

**詩のようなもの

『あの日 君は確かに口にしたんだ おかあさんと』**

美しい詩だわ

ふり幅大きいねえ

一行に凝縮された時間が滲みます。

てかさ、この詩も……R 40 指定……いやR 50 指定ぐらいかね。

だってさ、明らかに“分かって”スキ押してくれたフォロワーさん

70 代の先輩筋だもんね。早かったなあ (笑)

有り難うございます。

世一

時刻(とき)の物語り 詩編 令和5年3月2日 7時10分



スクリーンショット 2024-07-31 150215.png

尊厳詩する『お遊戯 SIDE B』

お遊戯だ
お遊戯だ
パパも観に来たグランパも
ママも観に来たバァバもきた

私は子猫、可愛い子猫

ジョイは飼い主、闇深い飼い主

ジュリエットは子猫、あざとい子猫

ボブは飼い主、やんでる飼い主

マーガレットは子猫、アルファベットの似合う子猫

アンジーも子猫、きにしいな子猫

サムも飼い主、アス……………パラ顔の飼い主

エシカは子猫、普通の子猫、普通ってなにかわからない

マリーは野良猫、ネオンの似合う子猫

ダンクはお空の下で猫を飼う、時々濡れて寒そうね

七色の猫着を着せられた……着せられた

着せられた……着せられた

マークとロイス、ミシェルとローズ

四人でダンスを踊ってる……踊らされてる

パパはスマホで呟いてる

ママ顔赤らめ土下座を要求

グランパ口ひげ弄る、お弁当のいなりさん

一口食べてお皿に戻したら行っちゃった

バァバが口ひげむしってる、自撮り写真を盛っている

時刻(とき)の物語り 詩編 令和5年3月6日 10時29分



カラヴァッジョ作 ホロフェルネスの首を切るユディット / 旧約聖書外典・ユディット記から
スクリーンショット 2024-08-01 06:18:35.png

閲覧注意！世一、腹上詩する「僕は硬くする」

僕は硬くする

僕は病気なの？
この画の
女の人を魅て
硬くする

きっと僕は

病気なんだ

でも・・・

画描きは僕より

硬かったはずさ

病気だったのだから



ホロフェルネスの首を斬るユディト白 - コピー.png

この女っぷりの良さ。分らぬ方が幸せか **____
わかつちまうと不自由になつちまうわなあ。いろいろと。

てか** **『僕は硬くする』だろうな、やっぱ。
硬くなるより、硬くなっちゃう、だろうし

“硬くする”の方が美しいのだわ。

時刻(とき)の物語り 詩編 令和5年3月9日 12時1分
の「下書き」から

◆サービス原稿・ゴスペル◆

引き籠らなければ見えない世界『私はこれで〇〇やめました!!』

まあ、書くにしてもだ、少しぐらいは知っておいてもらってた方が良いでしょう。チョット長くなる。時間のある時に読んで欲しい。幾分、自慢と読めるカ所もあろうが、基本的に自慢できるような人生ではない。ただね、諦めるも諦めないも、選択に過ぎません。貴方の選択。私の選択。それだけの話し。

1984年といえば、日本が国をあげてのお祭り騒ぎの真ただ中にあった時代である。ジュリアナ東京ではセンス片手にワンレン・ボディコンのオネエチャンたちが踊り狂っていた時代。クリスマスイブとクリスマスには、東京都内のホテルが一斉に“揺れる”と揶揄された時代だ。中には遠い日の向こうで像を結んだご仁もおられようか。

そんな中、日本を沸かせ、一世を風靡したテレビCMがある。商品名を出すことは控えるが、禁煙のためのガジェットであり、コピーがキャッチーであることから、当時、瞬く間に人気になった。「わたしはこれで煙草をやめました……①(場面転換)わたしは、これで会社をやめました……②」……①で禁煙ガジェットを見せる。……②で、グーを握って小指を立てて見せる。今でもそのインパクトはすさまじい。よければ Youyube で『わたしはこれで煙草をやめました』と貼り付けて検索してみたい。ご同輩、諸先輩。あのCMから既に、38年が経とうとしておりますぞ。早いですなあ。「あの頃は良かった……」と書けば、何やら如何にも我がことを老害という言葉と共に眺めることになるのだが** _ ブッチャケ、良かった！ 人間に余裕があった時代。人間に伸びしろ、ふり幅、余白があった時代。いまじゃア、あんなCMすらご法度なのだろう。バカバカしい。

さて、わたしは会社を辞めたのではなく『“これで” 高校を辞めました』となる。高校二年もおわり間際。あと一か月もすれば春休み。無事に三年進級だったわけだが** __ 読んだお人もおられると思うが、詳細は、小説「細氷」10000字版を読んでももらえればお分かり頂けるだろう。

まあ、あれはほぼ私小説。

そのわたしの半生は後々書くことになるであろう小説群に道を譲るとしてだ。チョット、この直近の12年に見る、わたしの引き籠りの実態に迫ってみたいと思う。ただね、わたしの12年ここで書ききれほどのものではなく、書いたことなど一瞬程度のこと。興味がある人はお付き合い頂きたい。長くなる。

◆引き籠り世一盛衰記◆

◆2011年年初より取り組み始めたイスラーム市場の調査と研究は、概ね5年に及ぶ引き籠りを要し、毎日14、15時間ほど机に向かい、ゆうに25000時間を超え、イスラーム教、キリスト教、ユダヤ教などの一神教の勉強に費やした。その甲斐あってか、観光とインバウンドツーリズムの研究者の立場から、日本では最も早くイスラーム市場への取り組みの必要性に声を上げることが出来た。これからのインバウンドツーリズムのキードライバーは「宗教をはじめとするアイデンティティー、イデオロギーを担保する姿勢をどの様に可視化するか」だと。

◆2012年 折しも国土交通省・観光庁が「イスラーム市場」を重点施策市場にする と発表。日本の中、宗教が市場化した歴史的瞬間だ。一気に注目されるも、未だ私は引き籠りと勉強の最中だったが、対象市場向けのあり様であり、制度策定に関しては、本宅で大きく声をあげていた。

◆2014年いよいよアウトプット活動が始まる。日本能率協会が主催する国際ホテルレストランショーでのセミナー登壇を皮切りに(通算2回)、イスラームをはじめとする、ルールを持たれた市場への介入のあり様を、セミナー、講演活動(通算46件)を通じ啓発。業界専門誌・週刊ホテルレストランを通じ1年間の連載執筆。多様化するインバウンド市場への備えという視点からイスラーム、ムスリム、ハラール、ベジ・ヴィーガンという切り口を解説。

◆T P P とハラールの関係性に着目し、アメリカ通商代表部のレポートをU S A のウ

エッブサイトからサルベージ、翻訳、ブラッシュアップ、民間では初めて国内で紹介し、最も早くからその関係性を明確にした。余談になるがT P Pは「環太平洋ハラル条約」であるというのが知らされざる一面である。だからアメリカはT P Pには参加できなかったという側面があることを国民は知らない。

◆国内初のDMO(Destination Management Organization)から通期の委嘱を受け、広域圏のインバウンド市場への取り組みの啓発という事業に携わる。

◆国土交通省・観光庁事業・広域観光周遊ルート専門家として指名認定を受け、17年から3期務めるが、コロナの為、果たすべき責任が果たせないことから、2020年6月自ら辞任を申し出る。

◆第一回インバウンド実務者試験に、一発合格。合格率は7割弱。大学で観光学の教鞭をとる教授ですら、3回おちて4回目に合格するほどの難関？一部上場企業の社員ですら何度受けても合格せず、断念したほどの試験？だが、はい。お陰様で一発合格でしたが、何か？

はい。自慢です。だって55歳で受けた試験ですよ。高校中退が(笑)そりゃ自慢するわ。

◆各種風俗事業現場の協力と理解を背景に集客支援事業を展開、外国人ツーリストのサービス適正化を目的とし、協議会を設置。ぼったくりの撲滅とサービスの適正化、公序良俗に資する遊興環境構築のために働く。ゲストの各種IDを利用した事前登録制など。これに先駆けて、わたしはラブホ、キャバクラ、ホテルなど“夜”事業所施設で勉強のため1年間ほどアルバイトをしている。

嫌いな人はごめんなさい。でも事実だからね。『在野に人あり』だ。どんな事業現場にも優秀な人間はいる。わたしは何度も感動した。

わたしの場合、基本的に一切の職業差別はない。下らない。日本の法律下で存在が担保されているものであるなら、凡てがインバウンド市場にとってのコンテンツとなり得る、必要なのは『制度上・運用上のガバナンス』という目線しか持っていない。恣意的な思惑は損失や逸失にしかない。

◆厚生労働省事業の性感染症対策事業と、インバウンド市場の結節を試み、インバウンドゲストが、日本のレッドライトエリアで遊興の際、アンケートなどを取得し、厚生労働省にその結果をフィードバックし、サポート。これは、厚生労働省の動きを知ったわたしからの持ち込み案件だったが、この時に厚生労働省とのパイプが出来た。

◆公益社団法人日本観光振興協会主催 第66回観光ポスターコンクールにおいて第一回インバウンド奨励賞を受賞。これは2017年から取り組んだ、民間初の【白タク利用抑止啓発プロジェクト】の一環であり、ピクトグラムを使いポスター化したものである。警視庁、大阪府警、国土交通省各支局、経済産業省、中小企業庁、ホテル、観光案内所等に配布し取り組みを紹介。

Please do not use unlicensed taxis and vehicles for your safety.

Operators have been established on the subject of punishment on the Japanese law.

안전을 위하여 비정규택시나 차량을 쓰지않도록 합니다.

운전사는 일본국법에 따른 처벌대상이 됩니다.

为了您的人身安全，请您不要乘坐没有许可的出租车及交通工具。

对于没有出租车许可的司机，日本的法律规定有相应的罚则。

為安全着想，請勿使用非法計程車及車輛。

操作者違法將受到日本法例檢控懲罰。



Use Public Transportation



**Not Accident liability
Not professional driver**

사고에 대한 책임감없이 운행한 운전자에게 할 수 없습니다.
没有许可的黑车司机，在发生交通事故时，无法对您进行赔偿。
無意外責任，非專業司機。



**Green License plate
Legal and Safety**

준특세 차량번호 범용 및 안전
持有绿色驾驶证的司机是合法安全的司机。
綠色牌照法律及安全

We obey your national rules.

여 우리는 당신들의 국내규칙에 따르겠습니다.

我们遵守贵国的国际惯例。

我們遵守你國家規法。

Copyright © ForeignersTourist Service Optimizatio Council All Rights Reserved.

スクリーンショット 2024-08-01 065157.png

◆京都大学経営管理大学院が主導したハラル関連シンポジウム&セミナーで、セミナー講師及びシンポのファシリテーターとして登壇。

◆この時の教授から、研究室が主導して立ち上げる新事業への参画の打診を頂戴したが、

「自分の信仰にあらず。よって糊口を信仰案件で癒すことは出来ず」との信念で辞退している。バカ_**_受けていたら**_今頃は……

◆この際に集まったメンバーたちと、日本初の多様なライフスタイルへの取り組みを具体化し、北海道でセミナー開催。

◆国土交通省・観光庁事業・広域観光周遊ルート専門家として当所から4名、外部推薦者1名、合計5名が認定を受ける。多分、日本で最も多く専門家を輩出した民間団体だろう。いうなれば、それだけ優秀な人材に恵まれたわけだ。

◆2020/ 裁判員裁判の裁判員に任命され、裁判の現場に参加するも、矛盾であり、現実と虚飾の間に板挟みとなる。

◆コロナで撃沈、かかっていた梯子が、気が付きゃ一段もなく(笑) まっいっかなあ♪
やること無いわけじゃないし。やりたいことはありすぎる** **で、現在に至る。

概ね・・・12年か。まあ、ここから先は、役人になるか行政機関か政治家に席でも置かなければ…実現困難な制度案しか持っていない。しかし、これからの日本の安寧を考えた時に必要な制度ばかりなのだが。 最初の三年、四年がしんどかった。理想と現実のギャップがあまりにも大きく、真剣に〇ぬことすら考えた。ただわたしが助かったのは、勉強の時期に素晴らしい師匠に恵まれたことだろう。有難いことに、必要なタイミングで助けて頂けるご仁には恵まれた。この師匠、キリスト教が嫌いだった。

インバウンド、観光、宗教、信仰、人種、言語、カジノ、I R、食、伝統、文化、各種産業** **大きな意味でのコンテンツ。しかし、日本の場合、コンテンツが健全に動き、働きを見せる上での制度設計に甘さがある。基盤となるプラットフォームが脆弱なのだ。いや、寧ろそれは“ない”に近い。出たところ勝負のパッチワークがグランドデザイン。これじゃあ、何度でも同じ轍を踏む。結局、清濁併せ呑む胆力が必要なのだが、制度側は見た目を気にする生き物だ。そこがジレンマを抱えるところか

なぜ、そうなるか。簡単だ。グランドゼロの決め方が下手なのである。要は、誰目線でガバナンスを構築するか。この見極めがこの国は下手だ。だから聞こえの良い言葉に右往左往することになる。

残念だが、私の仕事が理解できる人は多くはないだろう。単純なのだ、それは極めて単純にすぎない。必要か不要か。必要ならば観て見ぬふりをせず、その中に制度を敷設すること。それだけのことにすぎない。例えば行政が「性感染症対策事業」を進めるのであれば、市場となりうる可能性を秘めたところを観て見ぬふりすることは意味を持たない。例えば、行政がレッドライトエリアを市場化するのであれば、そこで制度(ルール)が機能する仕組みが必要となる。それだけのことだ。白タクがダメなのであれば、事業者に啓発するのみならず、インバウンドに携わる事業者は、市場にそれを働きかけなければならない。私は警察でもなければ取り締まる側の人間ではない。市場に働きかけることが、携わる人間の使命に他ならないことを忘れてはならない。

宗教や信仰から派生したルールを持ち込むのであれば、凡ての信仰や宗教、ライフスタイルを持った人々が不利益を被ることがない制度策定が必要なのだ。取り組むも取り組まぬも、決めるのは人である。選択肢が公平に可視化されることが必要なのだ。これぞ中道是々非々。いいとこ取りは必ず歪みが悪影響を及ぼせることは、世界の歴史が証人だ。

私にとっては、必要か不要か。それだけのこと。国内法を担保したうえで、必要とする人々がいるのであれば、目を背けるべからず。私の一つの誇りでもあるのだが… 自分の信仰以外の宗教を飯のタネにしなかったことである。一円たりとも宗教や信仰側からのお金を受け取ったことは無い。これがわたしの美学だ。

そりゃね、失敗もたくさん経験した。いろんな人にご迷惑もおかけした。二十歳の時と50歳の時かな** **真剣に〇ぬことも考えた。実際に、50の時に、輪っかに首通してぶら下がった。そうすると、革のベルトが切れたのである。革のベルトだよ。切れるわきゃ無いのよ。普通。 ああ……そっかあ、じゃあもうちょっと頑張ってみようかなあって。あの頃が一番苦しかったかなあ。中高年の鬱だよね。理想と現実のギャップ、乖離が目の前にぶら下がるとしんどい。先が見えないから。苦しいよね。どうしていいかわからないから。私の場合は多分、覚悟が中途半端だったからベルトが切れたのでしょうね。でもね、それから程なくして少しずつ動き始めた。

これは自慢じゃないけどね、わたしが本当に真剣に勉強し始めたのは27才ぐらいからだったかな。ありとあらゆることを独学で勉強した。多分ね、想像つかないだろうけど、本当にありとあらゆること。その時に身に着けたことは今でも身についている。

『物事には必ずゼロがある。勉強する対象が見つかったら、取り敢えずゼロが何処にあるか探すこと。そこまでは、絶対に手を緩めないこと』

わたしの経験上、勉強はゼロ起点が見えないことが一番しんどい。深度が読めないから。やってもやってもキリがない。でもね、そこに行かないと、ものごとの本質が見えない。

ただし、一つでもゼロを極めるとね、凡てが繋がっていることがわかり始める。この世の中のことってね、概ねゼロでみんな繋がるのよ。

インバウンドだったり、観光だったり、飲食だったり、小説だったり、絵画だったり I R だったり、風俗だったり不思議でしょ？ でもね簡単なのです。全部根っこで繋がっているだけの話し。上っ面では、それぞれ関係ないフリしているだけ。根っこでは繋がってる。その触媒役が『哲学』なのだが** __まゝ趣旨からズレる。

むかーしさ、イスラームやハラールの勉強してさ、人前でお喋りするようになって、一番よく云われたことは何だったかというとき** __「なんでイスラムをやり始めたんですか」ってこと。こういう質問をしてくる人は「突き詰めたことがない人」。物事を突き詰めたことがある人は、こういう質問はしてこない。根っこで繋がっていることはわかっているから。

あの世にこの世のことは持ってはいけない。この世にあの世のルールは持ち込めない。この世のことはこの世の根っこで概ね繋がる。

要は、物事を動かしているのは『都合』を抱えた人たちなわけよ。ゼロ起点まで深掘った、専門性は持つに越したことは無い。何でも良い。オタクでも良い。兎に角、必要以上に詳しいと思われるような専門性を身に着けると、確実に見えてくる世界は変わる。そうすると、あとは旬を待てば良いだけになる。他人が「無理だ」というものにこそ真剣に取り組むべし。あとは旬を待てば良い。そうすると根っこが繋がるから潰しが効くようになる。

了

時刻(とき)の物語り 詩編 令和5年7月16日 19時1分

極詩(獄死)する『チートで草はえる』

ツツツ〜ツイツツツいータッタラタター♪
らあららあらーインインイーん♪ のーのーのとととと♪
今日も今日とてはじまりました
楽しい愉しい無理ゲーの世界
一人じゃ無理でも民でやれば逝くやろう
狙うは♡5k
狙うはリップ50
今日はギャラリーのびてて草
リアクションスクネェけどみんな見てて草

キショ隠者、○ねしね○ね、プシュプシュプシュ!!
おっとでました今北さんは陰キャで知られたDQN
でもねでもねここもそろそろオワコン気配濃厚さ
飽きてきた飽きてきた
誰が逝かせる誰が逝かせる、早く逝け
………その攻撃は草生える
………気をつけろそれは流石に垢BANやろ
コメが流れる堕ちて来る
裏垢ふっかーつ、あくしろよ!!
ここだ、いまだ、パーペキなウラルを投下
おこ? うきききき!! いただきましたゲキオコ
♡ぼちっとオナシャス!!

ギャラリーの皆様、乙!!
黙って見ている姿に萌えるのだ

何にも云わず、遠巻きに、眺める貴方が素敵なの
そんな貴方もお友達
あんたも一緒、僕らと一緒に
ほらほらほらみたいでしょ？
逝くところ
そのウェーイ系の兄ちゃん
今度は君がターゲット
だってだってそうでしょう
みんなが見たがっているのだから
何にも云わずに見てるから
知らぬ顔してみてるから
無言の圧力、同調圧力
………エエー!! ここでお布施が飛んでくる？
コメが流れる

ナイスバ!
ナイスバ!
ナイスバと

親フラ登場
おy s コール また明日。

なんじゃこりゃ
そしてこれが、すべて匿名免罪符のもとウ○コのように垂れ流される。
こんな親御さんに育てられれば、そりゃああなた、そんな人間しか育たんでしょうなあ。

時刻(とき)の物語り 詩編 令和5年8月4日 9時43分
の「下書き」から

◆サービス原稿◆

随想好日「真実と虚構と傲慢と」

ちょっとあまり無理も出来ない状況にあり、書くにもひと苦労するのだが。忘れぬうちに書いておきたいこともありパソコンを叩いている。一部言葉足らずなところもあるかもしれぬが、気付いたところは後日加筆修正を加えてゆくので、読まれる方はその辺を含みおいて読み進めて欲しい。

とあるところで、とある御仁の言葉として、「小説は虚構であるが嘘は書きたくない」という言葉を残しておられた。さて、小説創作に勤しんでおられる御仁であれば説明を必要とすることはないのであろうし、この御仁の云うところの嘘は書きたくないという言葉に概ね同意できるのではないだろうか。締めくくりにこの御仁は「自分なりの真実を探さないと」と寄せている。

小説を読んだことの無い外部から来た人たちに向けて書かせて頂くのなら、小説とはそういうものである。「私小説」でも完全なるリアルは存在していまい。私の知る限り、大なり小なりの虚構は入る。では、小説創作における書き手の「真実」とは何か** **。これをみつけ繋がったつもりになることも小説読書の道ということである。これは、嘘、これは真実、これはどうだろう?ふむ。。。小説を読めるようなお人ではないのかもしれない。こう書けば傲慢の謗りを受けそうだが。わたしに云わせてもらえば、小説をそのレベルで読む人間が傲慢なのである。

もしも本当のものが読みたいと感じられたら「ノンフィクション」を読んで満足されておくべきだろう。実際にそういう市場は存在する。が、わたしに云わせればそのノンフィクションですら虚構は顔を覗かせるのだが。

では、小説書きが云うところの真実とは何か。なんなのか。小説書きは作品の中に自分の持つ世界観を投影するの生き物だ。真実とはこの一点。自分の中に存在しないものを書くことはできないのである。

…… わたしはね。という話しである。

時刻 (とき) の物語り 詩編 令和5年8月12日 10時6分
の「下書き」から

時の狭間に溺詩する。「詩 刻 (しこく)」

時間は溶けだすのさ
そして流れて帰依てゆく

いつも貴方はそう云った
どうして消えるではなくて帰依なの？
どこに流れて帰依するの？

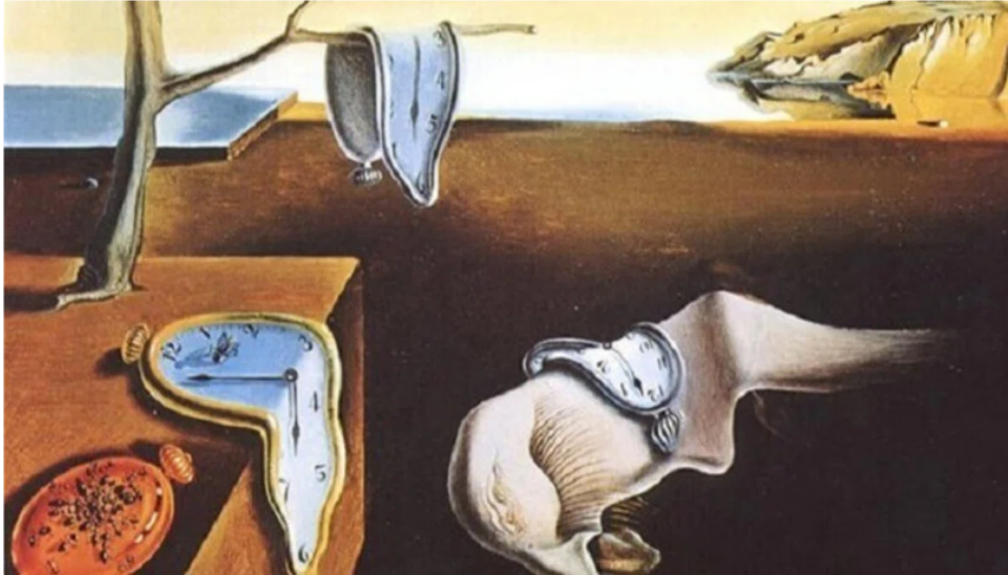
帰依する場所がここだったなら** **
せめて溶けだす時間をずらせたら
そう わたしは思いついちゃった
部屋の時計を遅らせよう** _

貴方の来る日に5分ずつ
だんだんと 少しずつ
気付かぬ程度に遅らせよう

もうそんな時間かよ

まだこんな時間よ……

…… 今日もあなたは帰依てゆく



スクリーンショット 2024-08-01 08:22:31.png

時刻(とき)の物語り 詩編 令和5年9月2日 15時37分

詩してみるか小説してみるか 「蛇口」

僕は学校の水飲み場が大好きだった。
あのクルクル廻る蛇口が好きだったんだよ。
だってさ、喘息持ちの友達の“松ラップ”がランドセルにつけていた吸入器。
それが何だか格好良くて。咳が出るたびシュッシュッって。
先端を口に入れてシュッシュッって。
苦い薬は飲むことなく、特別な病気に思えてきてさ。
学校の蛇口とおんなじ形をしていてさ。
僕は蛇口を上に向けると口をつけ
蛇口のハンドル開けたり閉めたりシュッシュッて。
時々開けすぎ口から鼻から水噴き出して
キッタネェって責められて。
エったバーリア!って。
蛇口を下に向けたまま、横から口を離して飲む友達。
髪や顔がベチョベチョで。だから僕は嫌いだよ。
そっちのほうがキタネェよ。
蛇口を下に向けたまま、横から蛇口を含む友達。
変な飲み方するから噎せちゃって、吹き出しゃ隣にかかるのさ。
蛇口をお空に向けながら、口を離して飲む友達。
蛇口に水がかかってさ、かかっているのは水だけかい？
蛇口をお空に向けながら、口に含んで飲むのは少数。
張り紙に「蛇口に口はつけるな!!」と
書いてあっても関係ないさ。
だって僕はシュッシュッがやりたいんだから。
なんだか病気が羨ましい。

時刻(とき)の物語り 詩編 令和5年11月2日 5時25分

「森羅万象～紅葉～陽月 一首」

迂闊にも 目に見る紅葉を 有難り 淡白く浮かぶ 陽月忘れて

迂闊にも
目に見る紅葉を
有難り
淡白(あじろ)く浮かぶ
陽月(ひづき)忘れて

森羅万象。見ようとせねば見えぬものがある。
ましてや紅葉狩りに来て
陽も盛りに出る月などに誰が想いを向けようか。
月は夜見るもの。
月は月齢を愉しむもの。
そんな思い込みはいつ身に付いたのか。
そんな常識は誰によって齎されたものなのか。

ほんの少し注意を空に向けると
青い空に浮かぶ淡く白い月を見ることが出来る。
紅葉の夜は人の手がなければ闇に溶けいる。

青空に浮かぶ淡白い陽月に盛り迎えた朱き紅葉がかかる様子は

想うだけで美しく、森羅万象、自然の理を想わせる。

目に見えるものだけを有難がると

いつしか感じることを忘れてしまいそうであり

洞察力が失せてしまいそうである。

まずは信に足る目を持ちたいもの。

時刻(とき)の物語り 詩編 令和5年12月1日 9時1分

一夜遅れのバースデー 一首

六ぼうは
引くに引けなく
なき七(シチ)けん
降り打ちするか
無理を押すのか

6という数字。とある博打の世界では引くに引けない悩ましい数字であり「思案六法」という例えの一つの語源でもある。

7という数字は既に大勢は決した状況であり泣くしかない手の様子。

さて、降り打ちするのか五分の一の確率を追うのか ** ____

「君を救うためなら俺は何度だって** ____死ぬ!!」という言葉が一部のマニアの間で流行を見せているという。

「一度しか死ねぬのだが」と感じる今日この頃。

61歳(泣きのしちけん)を迎え、どうする俺。

時刻(とき)の物語り 詩編 令和6年6月3日 24時52分

詩する『食葬(CANNIBALISM)』

我が身葬ふれよ
いまこそ時合い
どうせ喰わなきゃ書けねえんだ
内観内省
おもて看板似非(エセ)物語り
喰わにゃ書けない真がある
葬ふらにゃ書けない砦がある

喰ったところに蛆がわく
もっとおくれと蛆がわく
おいしいよ
おいしいよ
甘くて辛(から)くておいしいよ
苦くて辛(つら)くておいしいよ
喰えよ葬ふれよそして書け

両手両足残ってる
さてさて次はどこ喰うよ
雨戸もめて
カーテンもめて
灯りも墮としてどこ喰うよ
闇の中の祝祭(Carnival)
Cannibalism Carnival
喰えや書けや食葬しろや
どうせ書かなきゃ逝けねえだろう

喰って恍惚

書いて自慰

葬ふれりゃ蛆は甘露に咽ぶ

時刻(とき)の物語り 詩編 令和6年6月11日 7時46分
の「下書き」から

詩する『生成AIに〇ガチャ結果を聞いてみた』

ハズレです

無情に響くハズレの声

もういちどだけきいてみた

“なんどやってもかわりません”

“あなたの〇ガチャはずれです”

“… 問いかけを変えてみてはいかがでしょう”

… 僕の両親いい両親？

“毒〇です”

もう一度

“なんどやってもかわりません”

“毒〇です”

“毒〇です”

“毒〇です”

“毒〇です”

………… ババババババッシュュウシユウッッ

時刻(とき)の物語り 詩編 令和6年7月5日 9時37分

詩編『道程』

背負子をしょって歩いてる
石がたくさんはいつた
躰傾け道を往く
俺は重いでしょうと声かけた
男いふ
なゝに、しょえる石を集めただけさ

躰が前えとのめってますよ
転ばないでと声かけた
男いふ
踏ん張るためにのめるさ

私は声かけ、それでは周りの景色も見えません
野ユリが道端こうべをきざみます
男いふ
なゝに、拾った石が教えてくれる
山で拾った石は焼けたにほい
川で拾った石は水のにほい
草原の石は草露のにほい

男、やにわに立ち止り
後ろ振り向き汗拭う
ウチは訊ねる、何見ていると
後ろの景色と足跡さ
野ユリの橙あお空染めてた

山あり川あり草原あり
爪先だけが抉れた足跡あり
僕が探した自分の足跡
きっと並んでついてるはずさ

詩編『道程』

背負子をしょって歩いてる
石がたくさんはいつた
躰傾け道を往く
俺は重いでしよと声かけた
男いふ
なあに、しよえる石を集めただけさ
躰が前えとのめってますよ
転ばないでと声かけた
男いふ
踏ん張るためにのめるさ
私は声かけ、それでは周りの景色も見えませんが
野ユリが道端こうべをさざみます
男いふ
なあに、拾った石が教えてくれる
山で拾った石は焼けたにほい
川で拾った石は水のにほい
草原の石は草露のにほい
男、やにわに立ち止り
後ろ振り向き汗拭う
ウチは訊ねる、何見ていると
後ろの景色と足跡さ
野ユリの橙あお空染めてた
山あり川あり草原あり
爪先だけが抉れた足跡あり
僕が探した自分の足跡
きっと並んでついてるはずさ



アグリ.jpg

時刻(とき)の物語り 詩編 令和6年7月15日 12時11分

詩する『詩編 雨に詩えば』

雨つづき じゃぶじゃぶに

なった道 だって長ぐつ の友達だよ

ジャバンと 飛び込む音も

カッコいい だって長ぐつ 百人力

グズグズに なった短靴

はけなくた ってかまわない 長ぐつあるよ

ずっと降れ 長ぐつ買った

ずっと降れ 短靴はけない 臭くてはけない

神様さ おてんとうさま

いらないよ だって長ぐつ には似合わない

韻律 五七五七七

阪大病院のベッドサイドのテーブルから
世一

時刻(とき)の物語り 詩編 令和6年7月18日 16時45分

詩する 改訂版『詩編 百花繚乱』

九十九坂 百とせ繆がり 山のぼり 腰に手をして 巔みあげ

峻巖 前にももひざ あざ嗤ひ 石南花うつし また陟りだす

稜線 繚る山の颯 身をゆだね 予測不能は 瓦落瓦落奔で

いきがけの 駄賃と肚を くくりみて 乱も異なるもの 玩なものとする

九十九坂(つくもざか) 百(もも)とせ繆(ま)がり 山のぼり腰に手をして 巔(いただき)みあげ

峻巖(しゅんげん) 前にももひざ あざ嗤(わら)ひ 石楠花(しゃくなげ)うつし また陟(のぼ)りだす

稜線 繚(めぐ)る山の颯(かぜ) 身をゆだね 予測不能は 瓦落瓦落奔(ガラガラポン)で

いきがけの 駄賃と肚を くくりみて 乱も異なるもの 玩(あじ)なものとし

世一

時刻(とき)の物語り 詩編 令和6年7月23日 7時27分

詩する『詩編 堅香子の粉』

無垢なる真しろい粉を水にとく

薄白く水になじむそのさまは

潘のごとき堅香子の粉

ようすは沙疏り沙疏りと

あっさりしてる

沈降はやく泥質にて

水の底では凝り固まる

匙でこじりかまかすと

凝り固まりが嘘のように沙疏り沙疏りと

澹くみせる

然して

熱をうけた刹那

泥りとした粘りをみせる

そんな儚を見た

了



無垢なる真しろい粉を水にとく

薄白く水になじむそのさまは

潘(しろみず)のごとき堅香子(かたかご)の粉

ようすは沙疏り(さるり) 沙疏り(さるり) ※と

あっさりしてる

沈降はやく泥質にて

水の底では凝り固まる

匙でこじりかまかす※と

凝り固まりが嘘のように沙疏り沙疏りと

澹(うす)くみせる

然(しか)して

熱をうけた刹那

泥り(どろ-り)とした粘りをみせる

そんな儚(ゆめ)を見た

了

注釈 ※

堅香子(かたかご)

カタクリの古語

潘 (しろみず)

米の“とぎじる”のこと

沙疏り (さるり) 沙疏り (さるり)

分類 世一語 気配を探るうちに出来上がった言葉。「さらり」よりも気配が濃密となった
と思い込んでいる。他所で見たことあったら許してね。別にパクる気はないので。

かまかす (かきまぜる)

主に東北地方から北海道海岸部において使われた古い方言のひとつ。

同意語に、かます、かちゃます～などがある。

泥り (どろ-り)

分類 世一語 擬音に漢字をあてたもの

時刻(とき)の物語り 詩編 令和6年7月24日 4時00分

詩する『詩編 蚯蚓の哥』

みみず食みます何を食む
樹にはのぼらず厚くつもった落ち葉食む

みみず肥やしますなに肥やす
遍くいっさい天地無窮と肥やします

みみず哥うよなんと哥う
壤のしたでは陽が昇り
壤のうえでは星が出る

みみず哭きますなんと哭く
落ちた葉減ったと哭いています

みみず死にますなんで死ぬ
肥やした壤があつすぎて土上で焼かれて死にました

蚯蚓の遺書か遺言か
野山は焼枯れ
森も槁れ
壤渴れて
田畑も涸れて
ひと竭れて

蚯蚓かえるとどこかえる

龍の寢所へ召されてかえります

了



『詩編 蚯蚓の哥』

みみず食 (は) みます何を食 (は) む

樹にはのぼらず厚くつもった落ち葉食 (は) む

みみず肥やしますなに肥やす

遍くいっさい天地無窮 (てんちむきゅう) と肥やします

みみず哥 (うた) うよなんと哥 (うた) う

壤 (つち) のしたでは陽が昇り

壤 (つち) のうえでは星が出る

みみず哭きますなんと哭く

落ちた葉減ったと哭いてます

みみず死にますなんで死ぬ

肥やした壤 (つち) があつすぎて土上で焼かれて死にました

蚯蚓 (みみず) の遺書か遺言か

野山は焼枯 (やか) れ

森も槁(か)れ
壤渴(つちか)れて
田畑も涸(か)れて
ひと竭(か)れて

蚯蚓(みみず)かえるどこかえる
龍の寢所(しんじょ)へ召されてかえります

了

時刻(とき)の物語り 詩編 令和6年7月27日 20時28分

韻文詩する『超改訂版 詩編 百花繚乱』

山のぼり 巔みれば 九十九峰※ 目を細めつつ 百とせ※あゆむ

咲き姿 持戒ただよふ 郁子の花 険しき道も 心和らぎ

風繚り※ 身を屈めけり 九十九折り※ 背中※を前むけ 曾呂利曾呂利と

肚すえて 乱るる髪を くくりみて 泥梨※手まねく 極楽の門

■母音律 あいうえお順, 一句一字 百花繚乱

九十九峰……つくもみね (多くの峰々が山肌をこすり合わせ重なった様子)

百とせ……ももとせ (百年、長い年月)

風繚り……かぜめぐ-り

九十九折り……つづらお-り

背中……せな

泥梨……でいり (地獄)

尚、作中、九十九という言葉が二度使われているが、これは意図的なものであり、間違えではない。

時刻(とき)の物語り 詩編 令和6年7月30日 13時50分



ウクライナから避難する子供.jpg

詩編『風』

かぜが風ぐ
においが風ぐ
うみが風いでた

世界がおくれて風ぎはじめた
子供の哭く声とときだす
風ぎの打ち水

あめが風ぐ
みぞれが風ぐ
ゆきが風いでた

世界がおくれて風ぎはじめた
永遠(とわ)の祈りがとときだす
風ぎの鐘の音(ね)

だれもが風ぐ
ひとが風ぐ
無為にきづいて風いでいた

世界がおくれて風ぎはじめた
長(とこ)しえの誓(ちかい)とときだす
風ぎの祝祭

母音律 あいうえお、あ …… 風ぎ、え ……世界がおくれて～

いつの時代も戦争は弱いものが犠牲になってきた。

子供たちは泣くことしか出来ないなか、親の腕に悴噬(しがみ)※つく。悴噬(しがみ)つくことができる腕が残っていれば良い方だろう。親も亡くし、たった一人戦地を往く子供の写真も枚挙に暇なく目にする。

いつの日か子供たちが、飢え、病、孤独からくる恐怖とは無縁でいられる時代が来ることを切に祈る。そこに行き着くまで、どれほどの墓標が大地を埋めるのか考えただけで寒気がするのだが。

それでも人は“親ガチャ”“子ガチャ”“毒おや”と心無い言葉を吐き続ける。

無為に気付かなければ風の祝祭も遠い儚物語だ。

『最後の審判』を目にする前に、逝った者勝ちなのかもしれぬ……と考えなくもない。

悴噬(しがみ)※…… 漢字にしたかったので当て字で括ったもの。

時刻(とき)の物語り 劇詩 令和6年8月2日 11時15分

劇詩する「詩編 景色日常」

あな～た～♪
今日は
くいきいー
えりあーの
ゴミ出しですよおお
はあやーく出してくださいねえ(^^♪

かあ～ちゃん
ちょっとは
空気よめえー
せめて目覚まし鳴ってから
声を優しくかけてくれ

あんたああああ
いい加減にきなさいね
うちには目覚まし縁は無い
えっらそうに何云ってけつかる
お前は寝言は寝てから云えよおおおお

朝だ朝だよもう朝だァ～

いまやります！

劇詩（げきし、英語: dramatic poetry）とは、劇形式の詩のことであり、叙事詩・抒情詩と並ぶ詩の三大部門の一つ。「韻文によって書かれた劇」という意味で、劇に重きを置く場合は、詩劇（しげき、英語: poetic drama, verse drama）と表現する。

ふむ。これもひとつの“なに”なのだろう。

“なに”としては、些かなになのだが、なにかこう悲哀がなににする。

あいうえおという母音律に拘ることはない。

例えばひとつの母音律だけにこだわった作品を作ってみることも、気配、テンポ、節回しが読み手に与える影響は小さくないのだろう。

チョット変えてみよう。

時刻(とき)の物語り 劇詩 令和6年8月3日 10時17分



スクリーンショット 2024-08-03 100831.png

劇詩する『詩編 槿花(むくげ)』

ハニー 見て

庭の花壇の

槿花(むくげ) みて

目にも鮮やか

ももの彩花(いろばな)

朝陽あび

槿花一朝 (きんかいっちょう)

うたかたと

寝起きあたまも

おぼえめでたし

波風立てず

云わぬが花よ

母音律 あいうえお順

念のため※ 書くまでもないが創作である (爆)

こうして、すきなものを詩って
読んでもらえ、スキまで押して頂ける。
そしてダウンロードまでしてもらえる。

幸せな話しである。
感謝しなければならぬ。
みっともないものは書けぬはなあ。
良い詩をしなければ。

時刻(とき)の物語り 劇詩 令和6年8月3日 21時16分



スクリーンショット 2024-08-03 20:47:52.png

劇詩する『詩編 竿屋のこえ』

"奏でてよ

鈴々 (りんりん) チリリン

風鈴さん

メダカときんぎょも聞ってるワ"

顔よせて

息を吹きかけ

ふうふうと

手を後ろくみ 頬 (ほほ) 朱 (あか) く染め

竿やこえ

道の向こうの

裏通り

背中きえいる 偲 (おも) い出の夏

母音律 あいうえお順

劇詩（げきし、英語: dramatic poetry）とは、劇形式の詩のことであり、叙事詩・抒情詩と並ぶ詩の三大部門の一つ。「韻文によって書かれた劇」という意味で、劇に重きを置く場合は、詩劇（しげき、英語: poetic drama, verse drama）と表現する。

その昔は竿屋さんも「風鈴」を売ってあるいていた。

最初の一節だけ読めば、“竿屋のこえ”というタイトルに違和感が滲んでも不思議はない。

ただこの詩の場合は、風鈴が主役ではない。

読者の予想を裏切るのが一流の“いかさま師 (芸術家)” の手業、手練手管。

懐古主義的……ノスタルジーを触媒に少しのショッパサが感じられれば頂きますのだ。……二度ほど、大きくグラッとするところは表現できたと感じている。

この世界、一流しか登りつめられないし残れないからね。甘くない。

しっかり突き詰めなければ！！

あとがき

さて、北陸の地震から一年の幕をあけた令和六年も八月を迎えた。
「どんな一年になるのやら」そう思った人も少なくないのではないだろうか。
兎に角、物価がヤバイねえ。
昨日、アマゾンでお米を買おうとして驚いた。
軒並みお米の値段が上がっていた。ひと月前まで2700～2800円も出せばコシヒカリ5キロを買うことが出来たのに、今では3300円以上からとなっている。2割以上の上昇だ。具合が悪い。

あと五ヶ月で今年もおわる。
残り五カ月。わたしはどんな作品を創り上げるのだろう。あなたはどんな作品を創り上げるのだろう。
そしてここを訪れてくれた皆さんにとって、多幸に彩られた毎日を送ることが出来ますように。
そう願う今日この頃でした。

ありがとう。

世一

飛鳥世一 詩編集 第一部 『時刻(とき)の物語り』

著 飛鳥世一

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
